

# 平成29年度 大瀬中学校経営方針

校長 高島智春

## 教育目標

「自ら学び考え、豊かな心を持ち、たくましく行動する生徒」の育成をめざす。

## めざす学校像

### ○理想をもち、活力のある学校

生徒が目標に向かって、確かな学力を身につけ、自ら考える力を培い、自ら進んで学習や諸活動に取り組む学校をめざす。

### ○心が通い合うぬくもりのある学校

生徒どうし、教師と生徒が互いに心を通わせて人間としての生き方を見つめ、生命を大切にし、人を思いやり尊重する学校をめざす。

### ○保護者・地域と結ばれ信頼される学校

保護者、地域の願いに真摯に耳を傾け、情報発信を行い、学校や園、保護者や地域と連携した、地域と共にある学校をめざす。

## 「めざす生徒像」

- |    |  |
|----|--|
| 自主 | ○自ら考え学ぶ生徒<br>○責任を果たせる生徒<br>○節度ある生活ができる生徒 |
| 友愛 | ○長所を認め合える生徒<br>○支え励まし合える生徒               |
| 創造 | ○困難に負けず粘り強く行動する生徒<br>○感動をより豊かに表現できる生徒    |

## 「めざす教師像」

- 教育的愛情と使命感に基づいて行動できる人
- 豊かな人間性に基づいて生徒との信頼関係が築ける人
- 深い専門的知識に基づいて実践的な指導ができる人
- 豊かな社会性に基づいて家庭や地域社会との連携が進められる人

## 教育目標を達成するための重点目標と課題

### (1) 教科指導の充実(わかる授業、魅力ある授業をめざし、授業力の向上に努める。)

教科指導は、学校教育の本質である。一時間の授業を大切にし、生徒が意欲的に取組み、確かな学力を身につけることができる指導方法を工夫・改善し、授業の充実に努めることは、我々教師の本務であることの自覚を持ちたい。一人一人の発達段階や学習状況の実態を把握し、指導と評価の一体化を図りながら、基礎的、基本的な内容の定着を目指していきたい。

[このために]

- ①授業改善の推進 (定期的な公開授業や研修などを基にした、わかる授業や魅力ある授業づくり、主体的・対話的な学びの工夫、適正な評価等)
- ②基礎学力の充実 (ティームティーチングの活用、質問日や学習補充の実施等)
- ③感性を豊かにする取組の推進 (文化発表会、合唱・合奏発表会の取組)
- ④学習内容のお知らせ(シラバス)の活用
- ⑤読書活動の推進

### (2) 生徒指導の充実(生徒理解に立脚した、きめ細やかな生徒指導に努める。)

全体的には落ち着いた学校生活を送っているが、個々には課題を抱えた生徒もいる。きめ細かな、心に問いかける生徒指導を進めていきたい。いじめや心ないいたずら等、見えにくい生徒の課題にしっかり目を向け、事後対応に終わらない積極的な生徒指導をめざし取組んでいきたい。

[このために]

- ①基本的な生活習慣の確立 (心の通う明るいあいさつ、言葉づかい、授業規律、時間厳守を重視した生活習慣の確立)
- ②「報告・連絡・相談・確認」の徹底 (情報の共有、迅速かつ組織的な対応)
- ③「命の大切さを実感する教育」の充実、危機管理マニュアルの徹底
- ④生徒の心を耕す道徳教育の充実、規範意識と自己有用感の高揚 (道徳の時間および異年齢交流、職場体験などの体験的な学習の充実)
- ⑤登校しにくい生徒への取組 (スクールカウンセラーや関係機関との連携等)
- ⑥生徒の自治能力の育成 (生徒会活動の活性化)
- ⑦きれいな学校づくり (環境整備、清掃活動、エコ、環境教育に対する活動の具体化)

### (3) 開かれた学校づくり(地域・保護者と連携し、開かれた学校づくりに努める。)

地域や保護者に学校の目指す方向や取組などを積極的に公開することにより、地域・保護者・学校が協働して生徒の育成に努めたい。

[このために]

- ①授業参観や各種行事の工夫や積極的な公開
- ②PTAや地域組織との連携、地域教育力(地域人材)の活用
- ③学校評議員制度の活用
- ④適切な学校評価の実施 (自己評価・保護者アンケート・生徒アンケートの実施)

- ⑤スクールボランティアの活用
- ⑥近隣保幼小中学校や高校との交流や情報交換
- ⑦学校ホームページや各種通信の充実と活用

(4) **組織として機能する学校**(「チーム大瀬」として、全教職員で教育活動を進める。)

学校は、個々の教師の指導がベースになりながらも組織として教育が行われる場である。組織として機能する学校づくりを整備することが大切である。そのためには、校務分掌の各組織が個々に機能するとともに、分掌間の情報交流を活性化しなければならない。そして、各学年や分掌のまとまりを大切にし、学年、分掌間の風通しを良くし大瀬中学校の全校生徒を全教職員で見守っていく気概で教育にあたっていきたい。

[このために]

- ①学年や分掌間の連携 (各種会議の定期的な実施と情報交換の活性化)
- ②教職員間の活発なコミュニケーションの推進 (元気な学校、元気な組織づくり)
- ③研修の実施 (教育活動の質の向上をめざし、研修の成果を他の職員も共有できるような校内研修の実施「知の共有化」)